

ひなの家押野通信第12号

インドネシア研修生2人がホームで熱演 民族舞踊と腹踊りに歓声

アリス学園からひなの家押野に研修に訪れているインドネシア出身のアデイさんとプトウさんが11月6日、バリ島に伝わる民族舞踊とユーモラスな腹踊りを披露し、利用者を楽しませました。

まず、アデイさんが赤や金色が織りなすあざやかな民族衣装に身を包み、バリに伝わる舞踊を熱演しました。舞踊は漁船が海に出て網を投げたり、魚を捕ったりするしぐさを表現しています。アデイさんは伝統音楽をバックに神妙に踊りました。

また、岩崎雅人スタッフとペアで、腹に顔を描いた衣装をまきこつて腹を動かしフロア狭しと踊りました。2人の演技に利用者は「民族舞踊珍しく、アデイさんの上手な踊りに驚いた。プトウさんの腹踊りはとても面白かった」と話していました。



民族舞踊を披露するアデイさん



腹踊りを披露するプトウさん



野々市市押野1-31
電話076(287)5810

四季を撮る



もうすぐクリスマス

クリスマスツリーが11月初め、フロアにお目見えしました。約2mのツリーに、利用者やスタッフが金、銀色の玉、サンタさんのプレゼントが入る靴下、雪を模した綿帽子、リースなどたくさんのデコレーションを取り付け、最後にイルミネーションを飾りました。クリスマスの日まで輝き続けます。



インドネシアのお菓子を作る

アデイさんとプトウさんがインドネシアのスイーツ「ピランコレ」を作り、利用者へ振る舞いました。写真、バナナのてんぷらをチョコチップでまぶしたような甘いお菓子でした。



自分だけの文字に挑戦。「変わり筆」教室を開催

自分しか書けない文字を書く「変わり筆」教室が11月11日、ホームでありました。講師は地元西村友子さん、雪瑠朋子さん。利用者は綿棒と楊枝を使って墨



で「笑顔」「寿」「初春」といった好きな文字を書いていました。写真、地元市議の梅野智恵子さんも参加していただきました。



利用者が晩秋のツアーを楽しむ 紅葉に包まれた白山比咩神社

小春日和となった11月13日、ひなの家押野の紅葉ツアーがあり、利用者が晩秋の白山比咩神社を訪れ、色づいた境内を散策しました。

ツアーは、コロナ禍で外出自粛ムードのため外出機会の少ない利用者、感染防止に留意しながら、運動不足解消と野山の紅葉を見てもらうと企画

しました。

午前と午後に分かれて出発。好天の中、神社周辺の木々の葉も赤や黄色に色づいていました。境内では一人一人が本殿で

参拝しました。途中で名物の大判焼きを買って食べました。利用者は「私の生家が近くにあり、昔よく参拝に訪れた。懐かしい」。別の利用者は

「なかなか来れないところ。空気がすがすがしい」と喜んでいました。



参拝する利用者



紅葉ツアーに参加した皆さん

スタッフ紹介 「元気いっぱい」⑫

介護福祉士 今村 智子さん



頑張り屋の今村さん

技術だけじゃなく心の介護が大切
「収入を得ながら、学べる資格をとりませんか」とのチラシの文句に誘われ、ヘルパー2級（現在の初任者研修）を取得したのが9年前。自

宅近くのデイサービスで1年間ほど働いた後、老人ホームのひなの家彩で8年間勤務。10月異動でひなの家押野へ。自分には無理だと思っていた介護の仕事。以前、自分の殻に閉じこもる高齢女性に毎日手を握り、話しかけたら、ようやく心を開いてくれた。「技術だけじゃなく、心の介護も大切と知って、仕事が面白くなった」。

ひなの家押野はこれまでと、やや勝手が違う小規模多機能施設だが、「やりがいを感じる」とも。介護職のほかに、これまでにいろんな職に就いたが、車の大型免許を取得し、1年間、ガンの健診車を運転したことが忘れられない。

押野を散歩

秋の好天の日をみて、利用者がホームから近くの押野西公園まで往復200mほど散歩をします。写真。



利用者が大根贈る

利用者から自宅の畑で収穫した大きな大根2本。写真。写真。写真を撮りました。大きさは3.3kgと2.2kg。大きな方は珍しい三ツ又でした。



アヒル小屋雪囲い

本格的な冬に備え、石山紘介護士がホーム裏にあるアヒル小屋の金網にアクリル板の雪囲いを取り付けました。写真。



◎編集後記

真新しいインクのおいがする2021年の手帳を買ってきました。コナで始まり、コロナが居座り続けた2020年は、もうすぐ幕を閉じます。日々の仕事に追われ、何かやり残したことはないか。手あかのついた今年の手帳をめくりながらあらためて振り返っています。
(浦上)